

荒川区

町会ってなんだろう?どんな活動しているの?あらぶんちよ地区の町会長にお聞きします

あらぶんちよ町会見聞録

第27回



町会に参加すると、地域に仲間ができたり、自分が住んでいるまちに
対して愛着が生まれたり。まずはお祭りやイベントに参加してみよう!

写真・田尻陽子 取材・文・高橋瑞穂 (六識)



照明機材の点検である「夜間防災照明訓練」を
楽しいイベントにしようという考えで開催された
「夜桜鑑賞会」には約120名が参加した。

新たに開設した 公式HPやLINEで 地域をつなぐ

昔から暮らす人々と新住民の融和を目指す

菅苗会 会長 島田 正義さん



●菅苗会

1954年に三河島町字菅苗(現在の荒川八丁目)に設立。
戦前は、皮のなめしや軍事産業の大きな工場で栄え
ていたエリア。近年はファミリー世帯も多く暮らす、
住宅街として人気のまちに。町会員は約600世帯あり、
マンションと戸建てが半々ほどの割合を占める。

住宅街として人気が高く
町会員が増加中

私は2年前に町会長に就任
しました。町会名の「菅苗」と
は昔の地名で、今も例大祭で担
ぐ神輿に書かれています。この
辺りは、工場がたくさんあった
のですが、今やその名残はほと
んどなく、すっかり住宅街にな
りました。1990年代初頭よ
りマンションが次々と建設され
かつて400世帯ほどだった住
民が今では1100世帯ほどに
増え、町会員も増加しました。
荒川区120町会の中でも、住
民の伸び率はトップレベルで
はないでしょうか。新たな住民が
孤立しないように温かく迎え入
れ、世代交代しても住みよいま
ちが続くよう準備するのが町
会の今の課題ですね。

イベントのお知らせに
町会公式LINEを導入

町会の新しい試みとしては、
昨年、町会のLINE公式アカ
ウントと公式ホームページを立
ち上げました。現在、約110世
帯が登録してくれています。L
INEでイベント当日あるいは
前日にお知らせを送るのですが、
これが若い世代に響いたよう
です。「時間があつたら参加してみ
よう」と思ってくれる方が多く、
夜桜鑑賞会や祭礼など、町会の
イベントの参加者が増えました。
イベントの様子は公式ホームペ
ージで報告しています。そこ
では参加者の写真も掲載する
ので、イベント後にホームペ
ージを見てもう一度という良
い流れも生まれました。祭礼
では、LINEで神輿や山車の場
所などをリアルタイムで伝え
たのですが、それを配る休
憩所まで待つという大変さ
が、作ってよかったです。



LINE公式アカウントと公式HPは、
島田町会長が作成。LINEは、回
覧板やイベント会場の立て看板な
どで案内し、登録者を募っている。

新たなメンバーを巻き込み
まちへ愛着を持ってもらう

町会は住民同士の繋がりを作
っていく役割があると思うので、
現在38名在籍している町会役員
さんたちには、向こう三軒両隣
に町会に入る呼びかけをお願い
しています。新たなマンション
が建つ際にも、マンションの理
事長さんに代表として町会に参
加していただきたいという希望
を必ずお伝えします。町会に入
っていただくことで新住民さん
たちの声も汲み取りやすくなり、
より暮らしやすいまちになっ
ていくと考えています。例えば、
「夜道が暗い」という声が出れ
ば、町会の防犯部長と確認し、
荒川区へ依頼して防犯灯を設
置します。また、マンション内
で納涼祭をする際は、町会のテ
ーブルやかき氷機などの機材を
貸し出します。みんながまちと
関わり、郷土愛が深まってく
れたらうれしいです。いろいろ
な人を巻き込みながら、町会を
盛り上げていきたいですね。



住民の安全対策のための防犯
灯は荒川八丁目内に現在14本。
設置の申請や電気代の支払い
など、管理は町会が行っている。



12月に4日間行った「親子で火の用心」では、親子が赤い夜警ライトと柏子木を持ち、町会内を巡った。子どもたちにはお菓子のプレゼントも用意した。

今と未来、どちらも大切に考えて活動に取り組む

東尾久本町町会 会長 小沼 作太郎さん

アルミ缶リサイクルや町内清掃でまちを美しく

9年前より会長を務めています。この地域は、昔から町会がしっかりしているのかまちが綺麗な印象ですね。そんな美しい街並を維持すべく、「荒川区環境美化推進期間」には、役員が町内清掃を徹底的に行います。また、月2回アルミ缶リサイクルも行っています。ゴミ削減だけでなく、収集したアルミ缶は業者が買い取ってくれるので、町会の資金にもなっています。一日で軽トラック5台分ほど回収するため、年間35万円ほど貯まり、その資金は、バス2台で出かけるバスハイクの費用に充てたり、手伝ってくれた方に食事を企画したり、町会員が楽しめる行事に活用しています。



●東尾久本町町会

1950年に設立。町会員は約800世帯あり、そのうち戸建ては約600世帯。住宅街がメインのエリアだが、商店街や「東尾久本町通りふれあい館」がある。尾久東部町会連合会会長も兼務している、10代目会長の小沼さんは、「東尾久本町町会70年史」の準備を進めている。

担当エリアを決めた役員編成で災害時に備える

役員ひとりひとりが自覚を持って仕事を担当できるよう、担当エリアを分かりやすく区分して編成を組んでいます。まず、町会内を4つに分けて4名の副会長を配置。各役員と婦人部は、町会を全16エリアに分けてそれぞれ担当してもらっています。各役員が自分の担当エリアの住民を把握することで、災害時にも安否確認しやすく、迅速に行動に移れると思います。元々私が火災報知器の会社に通っていたことから、防災に関しての意識は高いかもしれせん。町会で行った「防災フェスタ」には約200名の町会員が集まりました。12月の「親子で火の用心」では、「火の用心」と元気な声で呼びかけ、町内を巡回した後、みんなで鍋やおでんを食べ、親睦を深めました。どちらのイベントも、町会の子どもたちがたくさん参加してくれたのがうれしかったです。



「ふれあい館」で開催された「防災フェスタ」では、応急救護訓練や初期消火訓練を体験。子どもたちは輪投げゲームにも参加した。

子どもや孫の未来を考え今できることを計画

町会の行事や行政からのお知らせは「町会ニュース」に書き、閲覧板や掲示板でお知らせしています。おかげで町内の活動もだいぶ周知されました。「町会がどんな活動をしているかわからない」という声が減り、逆にイベントの参加者が増えています。青年部を中心に毎年8月に開催している夏祭りも人気です。行事はいろいろありますが、もちろん今が楽しいという考えだけでは町会は成り立ちません。次世代の住民たちが困らないようにしっかり考え、予算やルールを決めていかなければと思っています。現在、町会会館の建て替えを行っています。新しい会館は60年間は維持される計画ですので、それに向けて資金積み立ての構想を練っています。そのためには住民のみなさんに町会に入っていたいただき、安心な暮らしを未来へ受け継いでいきたいです。



毎月2回行っているアルミ缶リサイクル。大変な作業のため、少しでも楽しみなができるよう年2回食事を企画している。

TCN 公式 LINE、始めました！

この度、TCN の LINE 公式アカウントを開設しました。
たくさんの友だち登録をお待ちしています♪

友だち登録をしていただくと…

サービス・お得な
キャンペーンなどの
最新情報が届く！

ご利用中のサービスの
お困りごとを
簡単検索！

LINE 友だち限定の
プレゼントに
応募できる♪



▼友だち追加方法▼

①スマートフォン等からLINEアプリで
下記二次元コードを読み込む



または LINE アプリで
【東京ケーブルネットワーク (TCN)】
[@tokyocablenetwork] と検索

②「友だち追加」ボタンを押して完了！



2025年2月に建てられた新会館。毎年の町会費から捻出された建て替え積立金や区の助成金などで、追加寄付を一切集めずに建設した。

みんなが仲間という意識で 気軽に参加できる 年間行事を企画

美化活動や防災活動で、住みよいまちづくり

町屋一丁目東町会 会長 原田 廣之進さん

町会長になって今年で6年目になります。幼少期よりこの地で育ち、父は役員、祖母と母は婦人部、私は学生時代に青年部に属するなど、長年町会に関わってきました。築62年の町会会館は、老朽化が進んだため、区の助成金や自己資金を利用して今年建て替えを行いました。町会会館は、2階に集会所を設ける場合が多いのですが、集会所を1階に配置し、階段を上らず利用できる工夫をしたり、バリアフリーで土足で入れる仕様にしたり、高齢者に配慮した設計にしました。また、2階にはものをできるだけ置かず、災害時には近隣の方々の避難所としても使えるよう工夫しています。

バリアフリーで安心な 新会館が誕生



●町屋一丁目東町会

現在1077世帯のうち、町会員は約半数の548世帯。高齢者の単身住宅が100世帯以上あるが、近年はマンションの増加と共に、新住民も増えつつある。地域のコミュニティの場である「町屋ふれあい館」や東京博善が運営する「町屋斎場」がランドマークとなっている。

楽しみながら参加できる 防災イベント多数



荒川区立第五中学校の体育館で行われた防災訓練。町会のメンバーが集まり、AEDの使い方の講習を受け、操作方法を体験。

町会員たちの交流を深めるため、「餅つき大会」や「日帰りバスツアー」など、さまざまな年間行事を開催しています。8月に行う「納涼こども祭り」は、「毎年楽しみにしている」という声が多いですね。防災活動にも力を入れているので、「納涼こども祭り」でも、消火栓に触れる体験をしてもらっています。荒川区には37カ所の一次避難所があるのですが、その開設訓練にも町会で参加しています。そこでは、ダンボールベッドやトイレの組み立て、AED訓練などを行います。「町屋斎場」が主催する「地域感謝の集い」では、VR防災体験や地震車体験などの防災のブースも用意されました。昨年は約1000人が参加したこちらのイベントに、町会は協賛という形で関わっています。町会員の防災意識を高め、安全なまちづくりを目指したいです。

ゴミ問題解決に向けて 美化運動を歩ずつ



町会の親睦旅行として行われる日帰りバスツアーはリピーターが多い。会費は大人1名4,000円ほど。昨年は館山へ出かけた。

町会の役員は、町屋一丁目に住んでいなくてもいいということにしています。「知っている同士でやったほうが楽しい」という声もあり、「みんな仲間」という気持ちで、近隣の方々もイベントの実行委員や運営の役員を担当してくれています。今、町会の一番の悩みはゴミ問題です。ゴミの分別がきちんとできていなかったり、不法投棄やタバコのポイ捨てがあつたりというのは、荒川区とともに解決していかなければいけない重要な課題ですね。そのため、より良いまちにするために、美化運動は欠かせません。毎月1回行う町会の定例役員会でも「まちをきれいにしていこう」と役員のみなさんに必ず呼びかけをしています。その積み重ねで、最近では、カラス除けのネットを張る収集所も増えてきました。年々まちはきれいに、住みよくなっていると感じています。

電子版「あらぶんちょ通信」で地域情報を発信しています♪

TCNで発行している暮らしの情報誌「あらぶんちょ通信」をホームページ上で公開中！
お手元の端末からご覧いただけるので、お出かけのお供にもぜひご活用ください。

地域のグルメ

お祭り・
イベント情報

TCN サービス

プレゼント

電子版限定
クーポン

番組表

スマホやパソコンから
かんたんアクセス！

あらぶんちょ通信

